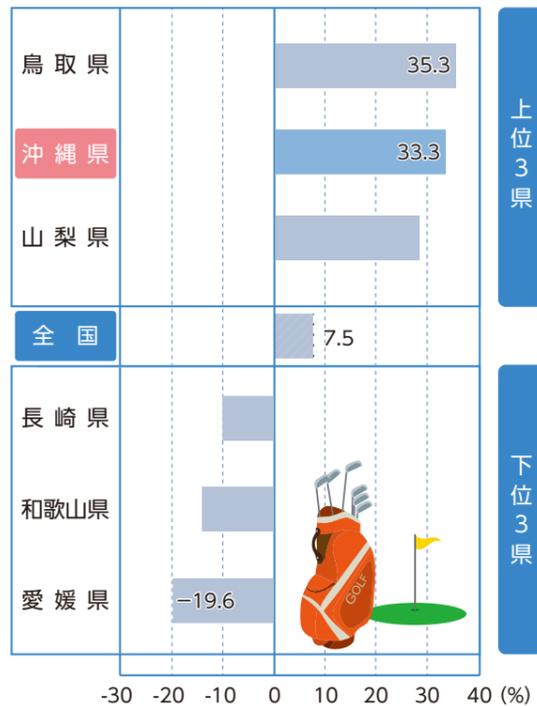


● 趣味・娯楽にかける時間の増加率

(男性・2011/2001年)



33.3%

暦は2月。年度末が近づいてきた。年度内締切の仕事を抱えて忙しい日々を過ごしている方も多いだろう。県内の男性は、仕事も忙しい一方で、趣味や娯楽にかける時間も充実しているようだ。

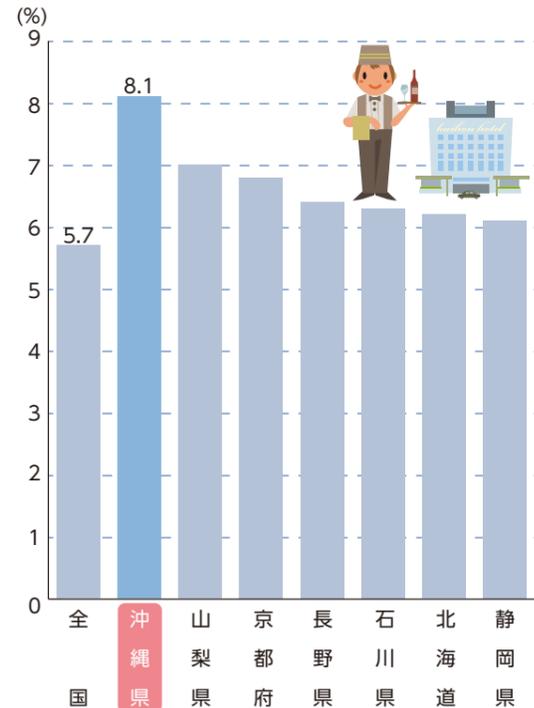
総務省「社会生活基本調査」によると、県内の仕事を持つ男性が趣味や娯楽にかける1日あたりの時間は、2011年は36分。01年の27分から10年間で33.3%増加しており、増加率では全国2位。

また、仕事の時間の増加率は全国4位となっており、県内には「よく働き、よく遊ぶ」男性が増えているといえそうだ。

ワーク・ライフ・バランスは、「仕事と生活の調和」と訳される。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、責任を果たすとともに、家庭や地域生活でも人生の各段階に応じた多様な生き方を求める動きが広がっている。沖縄もその動きの牽引役なのかも。(海邦総研・堀家盛司)

● 宿泊業、飲食サービス業で働く就業者の割合

(2010年)



8.1%

沖縄のリーディング産業のひとつである観光産業。実際は何人の方が働いているのであろうか。実は、観光産業は裾野が広く、さまざまな業種に分散しているため、観光産業という括りで就業者数を抽出するのは難しいのだ。

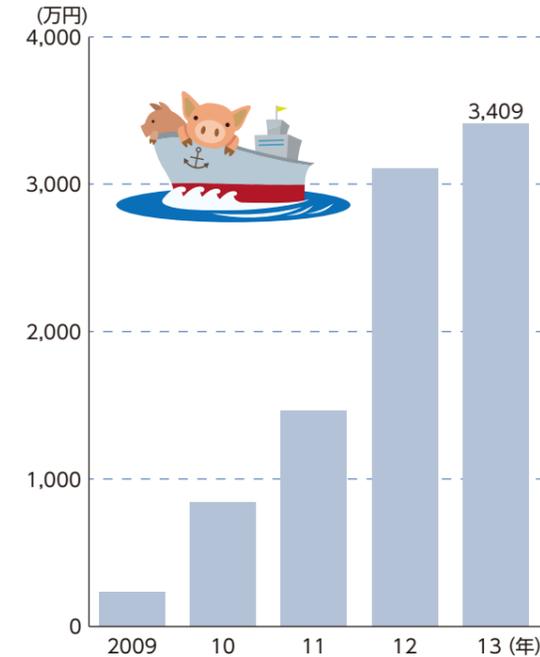
総務省「国勢調査」で観光との関連性が高いとみられる「宿泊業、飲食サービス業」の就業者数を見てみると46,797人。県内就業者数に占める割合は8.1%で、全国トップ。観光関連産業で働いている人はやはり多そうだ。

渡嘉敷村、座間味村、竹富町では就業者の約30%、恩納村では20%が「宿泊業、飲食サービス業」で働いており、観光関連産業が主要な産業だと言えそうだ。2013年の入域観光客数は過去最高を記録するなど県内観光は好調を維持しており、観光関連産業で働く人は増加が続くであろう。さらなる雇用拡大を期待したい。

(海邦総研・島田尚徳)

● 豚肉の輸出額

(2013年)



3,409万円

沖縄料理に欠かせない豚肉。日常的に食している人も多いのではないかと。一方、近年のアジアでの日本食ブームで、県産豚肉の需要が海外でも拡大しているようだ。

財務省「貿易統計」によると2013年の沖縄県の豚肉輸出額は3,409万円。ANA貨物ハブが始まった2010年以降、輸出額は約4倍に達した。豚肉輸出量のほぼ全量が香港向けとなっている。

需要拡大要因としては、認知度拡大とインフラ整備の進展があげられる。香港では、県産品の物産展が定番化している。インフラ整備面ではANA貨物ハブによる輸送ルートが確立されたことと、県が香港に冷蔵・冷凍施設を整備したことで、市場に即座に供給が可能となったことが大きい。

海外でも広がってきた沖縄ブランドの信用力をさらに高めるためにも、今後の安定生産・供給体制の確立が急がれる。(海邦総研・中山禎)

● 日本映画の公開率

(2011年)

都道府県	(A) 全公開数	(B) 日本映画の公開数	(A/B) 日本映画の公開率 (%)
1位 和歌山県	311	274	88.1
2位 高知県	356	265	74.4
3位 沖縄県	937	637	68.0
4位 山梨県	626	425	67.9
4位 熊本県	1,089	733	67.9
6位 三重県	1,172	789	67.3
7位 静岡県	1,953	1,286	65.8
全国	31,150	42,060	57.5

68.0%

家族で楽しむ娯楽の代表格ともいえる映画。ここ数年、話題を呼ぶ作品が増え、日本映画(邦画)の人气が返り咲いている。日本映画製作者連盟の興行ランキングでは、2013年の上位10作品のうち7作品が邦画という結果だ。

経済産業省「特定サービス産業実態調査」から、公開本数に占める邦画の公開率を算出してみた。沖縄県は68.0%と第3位の邦画公開率で、全国平均を11%余り上回る。邦画作品が全体的に増えている傾向もあるが、県内の20代前半までの人口比率は30%超と全国的にみても高い。上映側がこの層を狙って上映作品を選択していることも要因だろう。

今年5回目となる沖縄国際映画祭。無形文化遺産の組踊の初映画化など「観たい!」と思わせる“県産品”映画の話題が賑やかだ。今後も、映画を通じた地域活性化と経済の牽引効果に注目したい。(海邦総研・屋比久有紀)